

通信教育部メディアスクーリング
経済学（2017年度撮影）

経済学

（資本と利子から経済を考える）

第5回

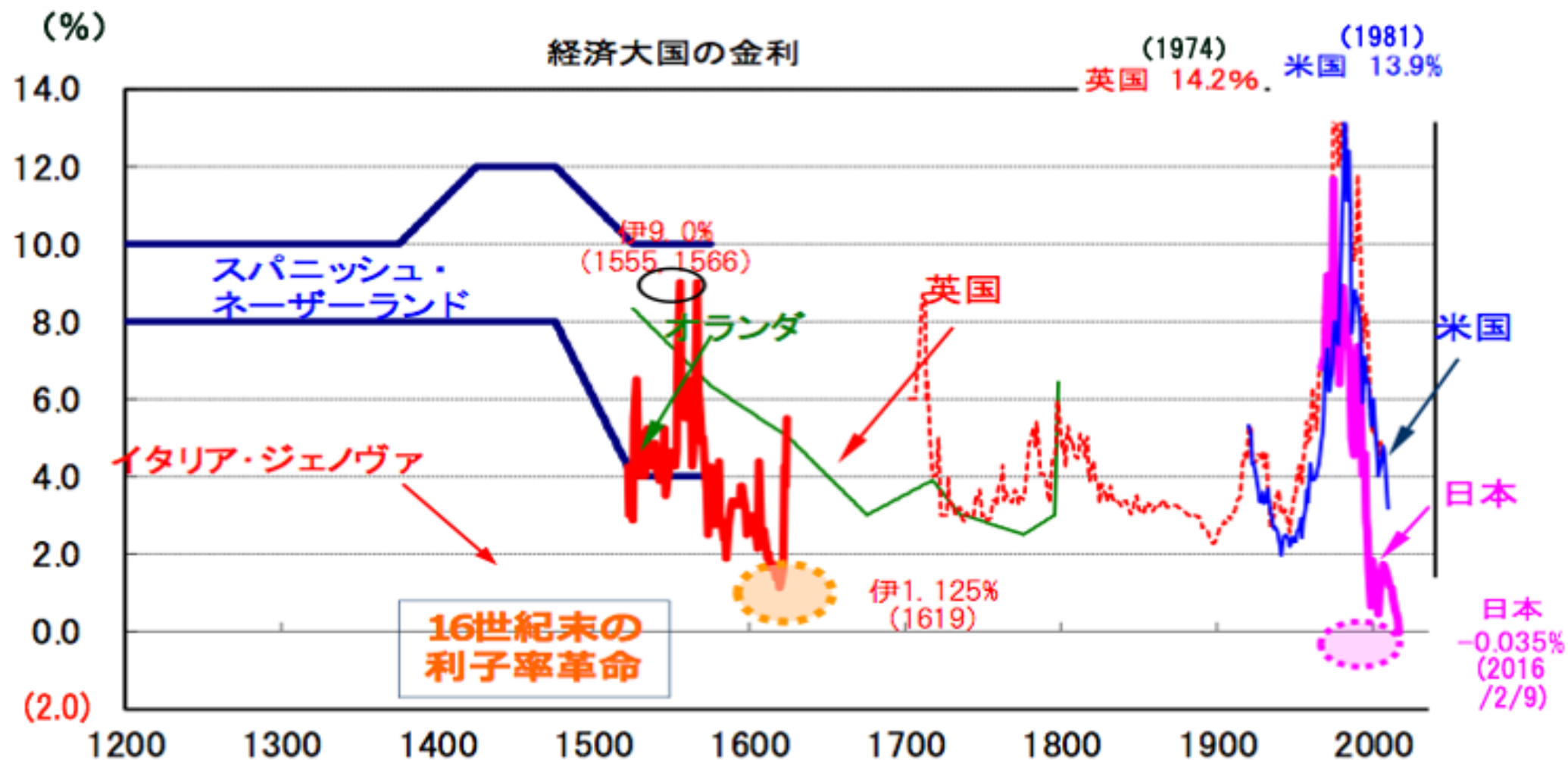
法政大学 法学部

水野和夫

第5回目のテーマ

- ▶ 「長い16世紀」（1450-1650年）の「利子率革命」
- ▶ 21世紀の「利子率革命」（1972年～）
- ▶ 「歴史の危機」（ブルクハルト）
- ▶ 蒐集（コレクション）の歴史

過去5000年で前例のない日本とドイツの「ゼロ金利」



(出所) SIDNEY HOMER "A History of Interest Rates"、
日銀「経済統計月報」

21世紀の利子率革命

「長い16世紀」・・・イタリアは自国の頂まで耕作されている

『地中海〈普及場〉Ⅰ 環境の役割』（F・ブローデル、原著1966年、浜名優美訳、藤原書店、2004年）

第Ⅰ省 諸半島一山地、高原、平野

16世紀、新たな土地を求めている（p.102）

16世紀全体、いやすでに15世紀全体が、新たな土地を求めているのだ。

イタリアは自国において、洪水で浸水した平野から山の頂上にいたるまで、当時の技術によって手に入れることのできる空間すべてを征服することに専念した。

「イタリアは自国の頂まで耕作されている」とグイッチャルディーニ〔1483-1540〕は『イタリア史』の冒頭で得意そうに書いてた。

価格革命と利子率革命

『地中海〈普及場〉Ⅲ 集団の運命と全体の動き2』（F・ブローデル、原著1966年、浜名優美訳、藤原書店、2004年）

第4章 帝国（p.11～）

信用市場の膨大な発展
（p.75）

決定的に重要な事実（略）すべての国家が求め、また無数の投資家が満足を得る、**信用市場の膨大な発展**という点にある。

我々がいま理解しようとしているような経済では、（略）安全を求めるということだろうか。

価格革命

ジェノバでは、1570年から1620年まで、他の国と同じようにインフレの期間が長引き、カルロ・M・チポリは「歴史家たちはこの時期を**価格革命**と呼んだほどで、利率の思いがけない低下が明らかに明確になる」と書いている。

1.2%まで低下

銀と金は投資
の手段を見出
すのが困難
(p.76)

〈深い割れ
目〉 (p.166-
167)

利率は、1522年以来、4パーセントから6パーセントの間であったが、1575年から1588年までの、少なくとも最も不景気な時期には、2パーセントから1.2パーセントにまで低下する。

これはジェノヴァに銀と金が殺到した時期にあたり、この時代には、銀と金は投資の手段を見出すのが困難である。資本がこれほど安く提供されたのは、ローマ帝国の衰退以来ヨーロッパの歴史において初めてであるが、これは**並み並みならぬ革命**である。

いかなる疑いの余地もなく、すべては二極化する傾向がある。つまり広大な土地に支えられた強力な名門として再建される、豊かで、たくましい貴族階級と、ますます数が多くなる貧乏人、極貧者、(略)とに二極化する。〈**深い割れ目**〉から古くある社会を二つに分け、そこに深い溝を掘る。

この溝を埋めるものは何もない。世紀末のカトリックの驚くべき慈善さえも、溝を埋めることにはならない。

現状認識：「歴史の危機」（ブルクハルト）

過去3度あった歴史の危機と現在の危機

察（「ブルクハルトの歴史的世界史的考察」第4章）	① 476年～800年	西ローマ帝国崩壊から カール大帝戴冠式まで	ローマ帝国の危機は断ち切ることができなかった。 これは 一種の生理学上の均衡化
	② 1453年～1648年	ビザンチン崩壊からウェストファリア条約まで	宗教改革は本質的には阻むこともできたであろう
	③ 1789年～1871年	フランス革命から普仏戦争まで	フランス革命もかなりの程度緩和される可能性があった
現在	④ 1972年～	ニクソン弾劾事件	第①の危機と類似 （1980年代以降のグローバリゼーション）

「歴史の危機」の始まり

1970年代		
1972	ウォーターゲート事件	
1974	ニクソン大統領辞任	弾劾
1979	イラン、イスラム革命	
1980年代		
1985	プラザ合意	
1989	ベルリンの壁崩壊	
	チャウシェスク大統領処刑	弾劾
1990年代		
1991	ソビエト連邦解体	弾劾
2000年代		
2001	アメリカ、9.11事件	
2006	サダム・フセイン元大統領処刑	弾劾
2008	リーマンショック	
2010年代		
2011	エジプト、ムバラク大統領辞任	弾劾
2014	イスラム国(IS)樹立	
2016	トランプ氏、米大統領選挙で勝利	

「蒐集」の歴史

『蒐集』 ジョン・エルスナー/ロジャー・カーディナル編、原書1994、高山宏/富島美子/浜口稔訳、1998、研究社)

序論 收拾つかぬ方へ（ジョン・エルスナー&ロジャー・カーディナル）

ノア（p.7）
SAVE
（救済と貯蓄）

ノアの方舟のノアがコレクター第一号（注1）

ノアは世界を“save”する〔蓄える〕ことに情熱をかけた。

—たまたま出会った単独の相手というばかりか、そこからあらゆる生命形式が立ちあげられる出発点の番（ペア）を「セーブ」するのである。そこでは、“save”はその最強の意味（救済）を獲得する。

救済としての
コレクション
（p.8）

単にたまたま蓄えておくというばかりか意識して絶滅から救う、救済としてのコレクション。

ノアにあっては創造されながら破滅の淵にあるものを、集め切ることはより良い世界の創造ということと不可分だった。

<div data-bbox="229 111 517 267" data-label="Text"> <p>蒐集と分類 (p.10)</p> </div>	<div data-bbox="713 111 2369 618" data-label="Text"> <p>蒐集に分類が先行する。 分類知は、・・・「我々の思想の真正の鏡であり、歴史の中に展開されたその変化こそ、人間知覚史への最高の手引き」なのである。 (注1) ノアの大洪水、紀元前2348年 分類が人間の集合的な思考、知覚の鏡なのだとすると、それを物として目に見えるものにしたものが蒐集ということになる。</p> </div>
--	--

<div data-bbox="229 696 621 981" data-label="Text"> <p>蒐集とは 世界、社会とは</p> </div>	<div data-bbox="713 696 2369 1346" data-label="Text"> <p>もし分類が人間の集合的な思考、知覚の鍵だとすると、それを物として目に見えるものにしたものが蒐集ということになる。 そして、世界そのもの、といっても主に社会的世界のことだが、それだってその職業的なコレクターたちに支えられてきたと言える。 税金を集める人間、情報を集める人間、穀物の実（じつ）を集める人たち、国勢調査員、・・・<u>などがいなければ文明そのものが存在しない。</u></p> </div>
---	--

社会秩序とは、
帝国とは、資本
主義とは、キリ
スト教とは
(p.11)

ローマ帝国の滅亡にしてもその官僚制度の徴税能力、つまりはひとつの経済、構造化された一国家を維持する力の衰微と一致していた。

社会秩序それ自体が本質的に蒐集的なのであって、・・・特権を持つものや貧しき者といった諸概念はひとつの選別格子（グリッド）をつくりだし、その中に実際の人々や事物を入れる。

世界の人々、事物が蒐集されたものであるとしたら、・・・支配者は蒐集家たちの層序（ハイラルキー）の頂点にいることになる。

帝国とは、諸国、諸民族を集めた一コレクションなのである。

一国とは諸地方、諸部族のコレクションである。

近代初期のヨーロッパで俗権は農奴を集め、教権は靈魂を集めた。

資本主義とキリスト教は物質的なものに向かうのと、物質的を超えたものに向かうのと、蒐集の二つの極端を示している。